
I f Rozen Maiden The last inning

天馬月夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

I f R o z e n M a i d e n T h e l a s t i n n i
n g

【Nコード】

N 6 9 8 6 C

【作者名】

天馬月夜

【あらすじ】

小説タイトルそのままです、ローゼンメイデンの最後は、こうだろうと思いついてます。原作を基本としていますので分からない人は、まず、読んでみてください8巻の続きです。

Phase 44 挨拶

ローゼンメイデン登場ドール

第1ドール水銀燈

Mercury Lampe

第2ドール金糸雀

Kanarienvogel

第3ドール翠星石

Jade Stern

第4ドール蒼星石

Lapislazuli Stern

第5ドール真紅

Reiner Rubin

第6ドール雛莓

Kleine Beere

第7ドール雪華綺晶

Die Siebte Puppe

これを書くに当たって、ローゼンメイデン全8巻を何度も読み直しました。

突然の連載終了劇によってあっけなく終わってしまったので、もし、あのまま連載していたらこう終わっていたんじゃないかな？というのを考えて書き記してます

アニメ版のローゼンメイデンは、無視しています。

本小説は、原作の続きと見てくれば良いと思います。

小説な分戦闘描写は、よく分からない気もしますが、

そこは、原作の通りの技しか使わないので実際に原作全8巻を読んだひとは、

分かりやすく、読んでない人は分かりにくいようになっています。

それでは、小説ならではのローゼンメイデンをお楽しみ下さい

Phase 45 決意（前編）

ジューンは、ラプラスの魔の言葉に耳を傾け、扉を開いた

nのフィールド誰かの精神の世界

大きく伸び続ける世界樹

獲物を捕らえて離さないクモの巣

自分を大切に思い出てる自分と同じ境遇

闇に包まれた誰かの精神の世界

『そう言えば、金糸雀あなたは、どうしますか？
nのフィールドにいないのはあなただけですよ。』

『もちろんカナも行くかしら！』

『クククク・・・そうですねそうでなくては物語は、始まりませんからね
では、私も もどりましょうかね』

『では、またnのフィールドで会いましょう』

『カナちゃんもいつちゃうの？』

『仕方ないのよ、お父様に作られ そしてそれがローゼンメイデン』

として

『生きていると言つことになるから』

『分かったわ、必ずみんなで戻ってきてね!』

『分かつてるわ』

『そう言い残すとジュン、ラプラスの魔、カナの順番で扉へと消えた・・・』

『暗い世界、一筋の光も刺さらない真つ暗な闇』

『とりあえず、どうしたらいいんだ』

戸惑うジュン

『簡単なことですよ、坊ちゃん。nのフィールドは、誰かの世界そしてドールズ達の目的は一つお父様に会うこととなるとすれば・・・もうお分かりですよね。』

『ローゼンを探すこと。』

パチ パチ パチ 一人の拍手

『大正解・・・が少し違いますね。ローゼンであるお父様は、アリスゲームの勝者』

『としか会わない。会えるのは、たった一つの薔薇乙女 ローゼンメイデンとなります。』

『しかしそれ以外の方法があるとしたら 貴方は、どうしますか?』

『オイそれ以外の方法って？終わらせる方法があるのか？ほかに？』

『オット、話しすぎましたね、後は、自分でお考えください。せいぜいこの世界で一生

すごさないように・・・ね』

ラプラスの魔は、去った

意味ありげな言葉を残し・・・

ヒューーーー

キャー

イッター

去ったすぐ後に、金糸雀が落ちてきた。

『ダイジョウブか？金糸雀？』

『大丈夫に決まってるかしら』

『それよりジュンこの世界は？』

『分かってる全部聞いた。ここで僕がやることを』

『それなら話は早いかしら　すぐにでもみつけましょう
別の終わらせ方を！』

目的は決まった。この精神世界が誰のものかまでは、分からないが
広く暗い場所で、扉をみつけ　この先自分の体験しなかった部分ま
でがあふれ出しても
真紅達とまた、一緒にいたい

人間

人形

一生は、いられない

相手が人形　自分が人間　であり続ける以上は・・・

Phase 45 決意（後編）

二人残されたジュンとカナ

目的も決まった、しかし、そのためには、

どう動けばいいか検討つかないまま時間だけが無駄に過ぎる。

『とりあえず移動しようかしら？』

『そうだなじつとしていても何も始まらない』

『そうよ、一刻も早く真紅たちをさがしださないとヤバイかしら
カナのマスターは、この世界にはいなし。カナも契約者なしじゃ
30分持てば良い方かしら』

『お前よくそれで、ここに来る気になったな。』

『カナもローゼンメイデンの一人だから！』

強気な口調で話した金糸雀

それは、つい前に聞いた真紅の言った。

『闘うことって 生きてるってことでしょう？』

それぞれ考え方は、違えど思いはおなじ。

誇りという見えない鎖に7体のドールすべてが

つながれている　人形師であり錬金術師でもあった

結菱　二葉　既にいないお父様・・・

『とりあえず、急ぐかしら』

『どうやって移動するんだ？』

『そんなの簡単』

『ここは、ステージの一つ

スタートがあれば必ずゴールがある
手分けして扉を探せばいいかしら』

『それに、思いが強いものには、その扉は他より
大きく見えるものかしら』

『それなら話は早い』

『カナの人工精霊ピチカートを渡しておきますかしら
ピチカートは優秀な人工精霊で私と意思の疎通ができるかしら』

『それと扉を見つけても絶対一人で入らないでほしいのね
中は、どうなってるか分からないし、もちろん敵もいるしね』

『分かった扉を見つけたらピチカートを通じてお前に教えればいい
んだな』

『そう。カナが見つけた場合もピチカートに知らせるから』

『じゃ、扉探しはじめるぞ』

2手に別れ始めた次のステージへと続く扉探し

暗いこの世界でたった一つかな？二つかな

今頃真紅たちは、闘っているのでしょうか

翠星石は、一番闘いたくない相手の蒼星石と

違った意味での戦闘・・・

金糸雀がここに入れる30分間の

短いようで長い戦いは、始まった。

2人は、まだスタート地点ゴールは、

みんなで戻り変わらない日常

しかし、ゲームの歯車は、うまく噛み合わないものです。

少しずつ流れはじめるイタズラな意識・・・

Phase 46 搜索（前編）

扉は、大きく見える

自分より遥かに・・・

遠くなる二人の距離

いつからだろう

変わり始めたのは

変わらない自分を変えたきっかけ

人形との出会い

扉は、小さく見える

自分より遥かに

近くなる二人の距離

いつからだろう

誰かのために

尽くし始めたのは

扉をノックして入ってきたのは

人形との別れ

二手に分かれてはじめた

ステージの扉 探し

終わることがあるだろうか？

ゴールは遠く狭い一つの扉

『はっ はっ はっ・・・』

全速力で探す大きく光る扉

ジュンは、走り続けた

周りは扉だらけ

同じ場所を走り続ける様な錯覚に陥りながらも走った

カナも同じだった

小さな身体　強く秘めた思い

扉は見えない　永久に続くこの世界での時間

多少変わり始める扉の数々

一つまた一つと減り始めた

想いがあらわす大きいモノ

走り続けて探したかいがあった。

それは、ジュンの前で大きく光り輝いていた

さっそく　金糸雀　に連絡を取った

『金糸雀扉を見つけたぞ』

『分かった　ピチカートをこっちに向かわして後は
ピチカートに案内してもらうかしら！』

『よし！言ってこいピチカート』

ピチカートは、ジュンを後にして金糸雀の元へと

飛んでいった・・・

まもなくすると

ピチカートの後を金糸雀が続いてきた

『はぁーはっ』

息が切れていた金糸雀

『オイ、大丈夫か？』

ジュンは、心配そうに問いかけた

『大丈夫 この程度今の真紅たちに比べたらなんともないかしら』

『それよりこの前にあるのがそうかしら』

『ああ ひときわ目立つ回りとは、違った扉』

『早く開くかしら？』

『行くぞ開けるぞ！』

ギー——

大きく耳障りな音を立てて扉は、開き始めた

さてさて この扉は、正解でしょうか——？

正解があれば 違いもまたある

開けたくないとも思われる扉もある

答えは、誰が決めるもの？

運命と名の答え

イタズラと名の答え

間違いを見たときの行動は、決まっていますか？

正解の行動は決まり済みですか？

扉を見たとき既に決意は決まっていたかもしれませんかね・・・

Phase 47 心を集中一つに

扉を開いた後に見えたのは、いつか見たジュンの過去

不登校のきつかけになった自分の書いた衣装

回りからの軽蔑の眼で見られて馬鹿にされた才能

『ようジュン君じゃない お人形の衣装書いた』

『ああ！ ホンとだお人形趣味のジュン君だ』

『しかしすげえよな 男であそこまでの衣装がかけるなんよ』

次々に飛びかった言葉に耳を手で塞ぎ目の前に広がる悪夢の中をひたすら走った

克服したはずの対人恐怖症は、いつまでもココロに残り続ける

道があり続けた以上は、走り続ける

『ちよつとジュン どうしたの？』

どうやらカナリアには見えてないらしい

話すのさえつらすぎる思いでをジュンは

『なんでもない！-！』

の一言で片付けた

『そう』

カナリアもこれ以上は 問いただしたりはしなかった。

なんとなく分かったのだろう

人にはそれ以上踏み入れてほしくない領域があるのを、カナリアも

ココロのどこかできづいていたのかもしれない？

『そんなことよりカナリア』

『どうなってるんだよ！』

『扉を開けば、見たくもない光景が目の前を横切るし』

『確かにあの扉は、他より大きく輝いていた』

『けど それは、ジュンの想いが全部出ていない』

『本当に心の奥底から真紅たちに会いたい 助けたいとおもはなれば』

『そんな ボクは、ちゃんと思ったただからあそこまで大きな扉を見つけた。』

『ジュン よく聞いて人間は、一つの事に集中できない生き物なの』

『真紅達だけ思いたいがそうは、いかない 無事ぬけださるとか
姉ちゃんは、大丈夫か？』

『色んな事を考える生き物なの 多分ジューンは、この扉の前に 真
紅よりも先に封印したい見

たくないものが見えたそれがここにいる理由力ナ』

『分かった』

その時またジューンを襲った

今度は、原因を作った担任の一言

『いやあ すごい君にこんな才能があったなんて』

才能なんてのは、ほんの少しだ

それを書いただけで不登校の道マッシグラ

あの時衣装を書かなければ

不登校になんてならなかったのに

ネットで人工精霊ホーリエなんて言葉見ることなかった

あんな場所で全校生徒に書いた人の名前をよばなくても

『うわぁー』

叫び声をあげながら一目散に走った

一番聞きたくない担任の声

原因を作った奴のいいわけなんて

『分かったかしら？』

『ジュンにしか見えないものが心の奥でかんがえていたことなの』

『思いは一つでいいの でなけりゃジュンの心は、どんどん具現化されるし』

それは、マイナスなイメージほどでてくるカナ』

『分かったよ！ どこまでなくせるか分からないけど一つの思い
真紅たちだけに』

してみせる』

『じゃージュン扉を出現させて　ここを出るには、ジュンが作りだす扉からしか出れない』

カナ』

精神集中ここからの扉を思い

扉は、ゆっくり地面から出てきた

迷いをなくすことが真紅たちへの一番の近道

助けたい・・・

それだけを思いさえすればいい

言うのは非常に簡単が・それはどれよりも難しい事実だ

人間に生まれたからには、全てを経験しなければならぬ

何年かかることだとしても

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6986c/>

I f Rozen Maiden The last inning

2010年10月12日05時32分発行